

千葉市科学フェスタの開催

自治体情報 千葉県千葉市

人口 / 936,809人 標準財政規模 / 200,009百万円

担当課 教育委員会生涯学習部生涯学習振興課

電話番号 直通 043-245-5957

実施主体 千葉市

関連ホームページ <http://www.chibashi-science-festa.com/>

事業期間 平成23年度から

関係施策分類 ①、②、④

予算関連データ

総事業費：7,800千円

| 名称 | 所管 | 金額(千円) |
|---------------------|------------------------|--------|
| 先進的科学館連携推進事業 支援費 | (独)科学技術振興 機構(文部科学省) | 5,000 |
| 一般財源 | - | 2,800 |
| | | |
| | | |

施策のポイント

市民の科学リテラシー向上、科学の日常化を主目的とするもので、これまでに単独で行われる傾向のあった、大学、研究機関、企業や市民団体等の科学関連の取組を、関係機関と行政が連携・協力し、全市あげて一体感をもって開催した点に特徴がある。

施策の概要

1. 取組に至る背景・目的

千葉市科学フェスタは、「千葉市科学都市戦略事業方針」(平成23年6月に策定)に基づく事業。同方針では、「ライフスタイルに科学・技術が溶け込む環境づくり」、「魅力ある人材を生み出す土壌の醸成」等を目指している。

2. 取組の具体的内容

東日本大震災のあった今年度は「復興」と「科学の日常化」をキーワードに開催。

科学フェスタの中心は、下記の10月に行ったオープニングからフィナーレまでであるが、市内全域への浸透が重要であることから、サテライトイベントも重視した。

(1) オープニングイベント(10月1日)

市長のオープニング宣言に続き、早稲田大学名誉教授・大槻義彦氏を招き、市長、教育長、千葉市科学館館長とともに「私たちと科学のつながり」をテーマに、パネルディスカッションを実施し、約200人が参加した。

(2) メインイベント(10月8日～10日)

千葉市科学館のある複合施設・Qiball(きぼーる)を会場に大学等研究機関、企業、教育機関、市民団体等の連携により実施した。28団体がブース出展したほか、多くの実験・体験教室、サイエンスカフェ、中高の科学クラブの研究発表会等が行われ、約5,000人が参加した。

(3) グランドフィナーレ(10月29日)

(独)科学技術振興機構顧問の北澤宏一氏による基調講演等を実施し、約150人が参加した。

(4) サテライトイベント(9月～12月)

大学等研究機関、企業、教育機関、市民団体等が実施する、約60以上の科学・技術関連の事業を千葉市科学フェスタのサテライトイベントとして位置づけた。

3. 施策の開始前に想定した効果、数値目標など

関係機関および市民団体等が連携して科学コミュニケーション活動を幅広く行い、子どもから大人まで、あらゆる年代の人々が科学を通して交流できる場を創出できる。

全ての市民が科学に興味・関心を持ち、考えて行動していくことで、安全・安心で豊かな暮らしづくりや将来の産業振興につなげることができる。

4. 導入・実施にあたり工夫した点や苦労した点とその対処法・解決策など

千葉市科学フェスタのロゴマークを作成し、広報・PR活動に活用するとともに、サテライトイベントを含め事業間の一体感醸成に努めた。

5. 現在の実績・成果、今後の課題と展開

今後も継続的に実施する予定であり、ネットワークに参加する団体数をより増やし、かつ結びつきを強くする必要がある。また、単なるイベントに終わらせることなく、最終的には、千葉市科学フェスタを千葉市の文化として定着させたい。